



[男女共同参画社会の実現をめざす情報誌]

男女共同参画社会

特集 私たち一人ひとりができること

OKAYAMA

2001.9

vol. 21

岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例

シリーズ

さんかく社会のパイオニア Vol.3

DUO

[デュオ]

10 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例
10 岡山県男女共同参画社会の形成の促進に関する条例



岡山市

特集 私たち一人ひとりができること

「男女共同参画社会」という言葉も、21世紀に入り、ますます見聞きするようになりました。今回は、前号(20号)の特集「男の本音、女の本音」に対して読者の皆様が寄せてくださった声を受けて、私たち一人ひとりができることはどんなことだろうと探っていくことにしました。本誌編集にたずさわっている者で、自由に話し合ってみました。その様子を紹介します。



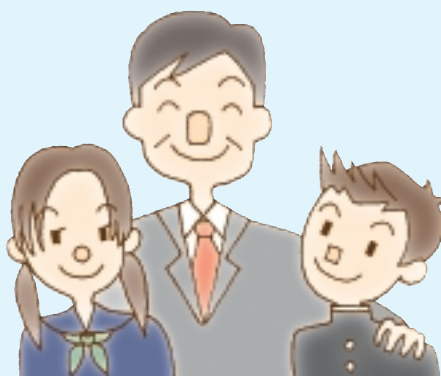
「らしさ」 にしばられないで

A 男女共同参画社会の実現のためにあなたはどんなことができますか。あるいはやっていますか。と問われたら、私の場合は、旧来の固定的な男女役割分担意識から解放されることです。もっとやさしく言うと「女らしさ」という言葉にしばられないで生きることです。実際そう生きてきたから、とても気持ち自由でした。長男の嫁らしくとか、以前からある固定観念が持っている期待感がありませんよね。女性だからお茶を入れてくれるだろうという期待感からいっさい抜け出て、あえて「らしく」という言い方をすれば「自分らしく」生きていくということです。「女の子だから。男の子だから。」と子育てで

使い分けたこともありません。仕事でも私は長い間、高校で教師をしてきましたが、できるだけ「女の子だから。男の子だから。」という見方で指導しないように意識してきました。

B 私たちからできることとしてまず思い浮かんだのが、家庭も学校もあわせての教育です。私は男の子と女の子を一人ずつ育てていますが、性別に関係なくまったく平等な育児を心がけています。だから男の子にもピアノを習わせていますが、「男の子なのにピアノを習っているんだ。」といまだに私より若いお母さんに言われることがあるんですよ。でも男の子にとっても女の子にとっても、人間はみんな音楽を楽しむことは必要だからと答えています。

C 私も子どもが3人います。3人をみているとそれぞれ子どもには個性があり、得意なこと不得意なことがあったりします。男の子だから、女の子だからというよりは、その子の個性として良いところを伸ばしてやりたいと思っています。



D うちまもなく2歳になる女の子がひとり。夫が娘によく言うんですよ。「女の子だからきちんとあいさつができないといけない。」とか「女の子だからお手伝いができるようにならないと・・・。」とか。あいさつもお手伝いも、男女に関係ないと思いませんか？

ゆっくり、少しずつ

D 私が『男女共同参画社会でない』『やっぱり男女差別ってあるんだなあ』と感じたのは、仕事をやめて家庭に入ってからです。私たちの世代は男女平等の教育を受けて、就職活動も男子学生と同じようにしてなんとか総合職で採用してもらい、それなりに男性と同じように働き、『どこに男女差別があるんだ？』って思っていました。でも、結婚したら「嫁にもらった。」とか、「あんたはうちの嫁なんだから、うちの色に染まってもらわなきゃいかん。」などと言われ、『仕事も辞めて当然。女は家事と育児ができてあたりまえ』ってね。だから私は今、社会の中での居場所がなくなり、やりがいや充実感が感じにくいから、とても寂しい思いをしています。みなさんはあたりまえに受けとめているかもしれないけれど、私が寂しく思う一つの原因に、家庭に入ってから「 さんの奥さん」とか「 ちゃんのお母さん」と呼ばれ、名前ですら呼んでもらえないこと。私は私として存在していないって気がしてね。

でも、うちの子が大きくなって結婚する頃には、働くお嫁さんにもっと寛大な世の中になっているんじゃないでしょうか。表面上の「男女平等」の教育ではなく、現実的に即した教育によって真の男女共同参画社会が実現していることを希望しますね。



A ゆっくりと、少しずつね。私が働きだした頃は、まだ女性が保育所に子どもをあずけてまで働くということが、世間ではまだまだ理解されていなかった時代です。ある日の夕暮れ時、仕事帰りに子どもを保育所に迎えに行き、ずいぶん疲れた顔で帰ってきたのでしょうか(笑)。そのころ大阪郊外の公団住宅に住んでいたのですが、夕食の支度を終えた主婦たちが集まって井戸端会議ならぬ階段会議をしていて、その横を会釈しながら通り過ぎると後ろから声が聞こえるんですよ。「かわいそうにね。」って。あれから30年経った今、誰も働く母親をそういう目で見ませんよね。やっぱり、ゆっくり少しずつ変わっていくんだと思います。

夫婦が対等であること お互いを思いやること

B 子どもに対して私がしていることは、夫婦の対等な関係を見せるということです。それは必ずしも外で働いていなくてもいいんです。固定的な性別役割分担は解消すべきという意見は持っていますが、うちの家庭に限って言えば、完全に夫婦で性別役割分担をしています。夫が外で仕事をし、私は家で家事や育児をしています。で、なぜ性別役割分担がいけないかっていうと、外で仕事をする

ことによって報酬を得た夫に経済力があって、外で仕事をしない私に経済力がないため、上下関係とか、主従関係とかができてしまったら問題なんだけど、そこを私たちは子どもたちの前ではっきり話しています。報酬を得てくるのは夫。だけど夫は私のことを「お母さんが家のことをしてくれているから、僕は外で働けるんだ。」っていうふうに子どもに対して言ってみせることで、対等な夫婦関係を維持している。もちろん、嫌な事は嫌と夫に対してははっきりと言えます。

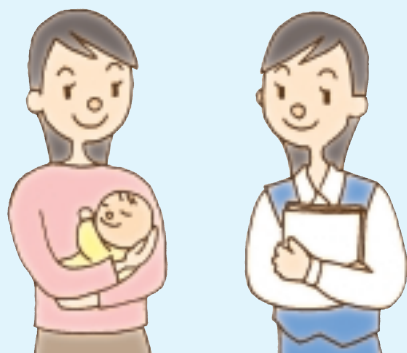
E Bさんの家庭は理想的じゃあないでしょうか。そういうふうに役割分担があって、それをお互いに認め合い、助け合うことが大切ですね。もちろん男女は平等だが「役割分担などない。」と言うと、理解できなくなってくる。夫として妻として、父として母として、それぞれ役割は当然あると思います。



C 前号の本音に、「家事をしているから低く評価されて、食べさせてやっているんだと言われる。」という意見がありましたよね。職場でも、家庭でも、評価されるということが人間としての支えになる。だから家庭の中でも夫婦がお互いに思いやり、認め合い、それを表すことが大切だと思うし、これはすぐ私たちにもできますよね。

性別に起因する役割分担が問題

F 私は岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例づくりにかかわってきましたが、この条例で解決しようとしているのは、固定的性別役割分担です。役割分担はどういう場面にもあり、家庭でも役割分担はあっていいわけです。ただ、それが性別で固定的に役割分担される場合は直さないといけません。性別に起因する必要はないと言っているのです。男女のそのときどきの状況、都合によって分担されるものではないでしょうか。



E まあ、それぞれ家庭事情があるでしょうが、では極端に言って、男性が家事をやり、女性が24時間働きに出るという状態は、これはちょっと違うんじゃないかな。

F いや、そういう状態がおかしいという考えが、すでに間違っている。

E でも、それもいいというのは男女共同ではなくて、男女の特性を否定した考えではないでしょうか。

F それも事情。その時々、その事情による役割分担はかまわないと思います。

B ただ、経済力がある方とない方とで上下関係ができると、対等ではなくなる場合もあるんです。それぞれに家庭事情はあると思いますが、うちの場合は夫が長時間労働で転勤も多いし、実際はとてもじゃないけど共働きはできなかった。私が専業主婦で支えることでしか夫は勤められなかったと思うんですよね。進んで選んだわけではないですけどね。

F なるほど。

企業の現実

F Eさんは企業の経営者ですよ。経営者からみて男女共同参画を進めるのにどういうふうに取り組んでいくのか、ちょっと聞かせてください。

E うーん。会社の業種とか、規模、置かれた立場によってずいぶん事情は変わってくると思います。企業経営者ば「男か女か」よりも全人的能力を求めているし、採用した人材の能力を引き出すのが基本的立場です。男女共同参画社会は理解しており差別する気持ちはないけれど、正直いって現実には厳しい。企業は利潤を追求しなければならないし、倒産したらもともともない。経営者はすべての責任を負っているわけです。

G 私も中小企業の経営者ですが、中小企業だからこそ男女に関係なく優秀な能力をもった従業員を雇用したいし、十分に能力を発揮してもらいたいと思っていますが、一人ひとりに責任はかかるし、負担は大きくなってしまい、育児や介護のための休暇を十分にとってもらうことがむずかしいのが悩みですね。



ものさしで決めつけず

F 前号の「経営者がみる男性、女性」のなかに、女性の採用にあたっては男性以上に配慮と経費がかかるし、その代償がどの程度、会社に還ってくるか疑問という見方がありました。こういう見方をしている、本当に経営者のみなさんが損をしていないかと。あなたの会社には優秀な社員たちがいるんじゃないの？とね。たとえば、プリクラを考えた人とか、iモードを考えた人とか、みんな女性で、すごいですよね。可能性があるかもしれないのに個人をみず、女だからと世間一般に言われている見方による「ものさし」だけで決めつけていたら、いつまでたっても個人の能力は発見できないんじゃないのでしょうか。男だからどうだ、女だからどうだという固定的なものさしで見るのは、もうやめましょう。私を個人として見てほしい。あなたも個人として見ます。それが男女共同参画社会。そう言えますね。

A そうですね。自分が自分らしく生きるためには、まわりの人も自分らしく生きることを認めることが、大切なんですよね。



読者からの声

前回の特集「男の本音 女の本音」では、男女共同参画社会の実現に向けた、さまざまな問題点が提起されました。読者の皆様からも、多くの貴重な意見が寄せられました。一部ですが、ご紹介しましょう。

夫婦のあり方、 嫁のあり方について

若い頃には、育児や家事には非協力的だった主人。しかし、現在、社会人となった2人の子どもは、夫の若い頃の立場や思いが理解できるようになり、育ててくれたことへの感謝や、いたわりの気持ちを持てるようになったようです。夫も立場が変わり、仕事にゆとりができてくると家庭に戻ってきました。そして、夫婦2人の生活となった今、良い関係でやっています。(60代 女性)

私も夫から「食べさせてやっている。」と言われ続け、働くことも認めてもらえなかった。時代が移り変わった現在、私と似た状況にいる人を見るのは残念である。(80代 女性)

男女(夫婦)それぞれが、本音を主張しているだけではどうしようもないと思います。大切なのは、相手を思いやる気持ちではないでしょうか。(40代 男性)

季節の料理を作ったり、家庭の中で文化を継承したりすることは、大切なこと。妻のみがその役割を担うのではなく、夫婦で取り組んでみてはどうでしょうか。(60代 女性)

教師を務める私の両親。父は、私の幼少の頃から台所に立つことも、裁縫をすることもいといませんでした。私たちの中にある男女差意識を身を持って教えてくれた父を尊敬しています。(30代 女性)

親の介護などは、妻と一緒にやっていきたい。(50代 男性)

私の場合、「嫁」という周囲の期待にとらわれず、積極的に払拭してきた。多少の摩擦はあったが、理解され、周囲も変えてきたと思っている。(50代 女性)

教育現場や家庭での 男女差別について

自分自身も旧来の役割分担的な発想の中で、生徒に対応していることがあり、改めて反省している。(40代 男性・女性)

特に学校の先生の言動に、男女差別を感じることもある。(女子高生)
学校は、女性が多く進出している職場なのに。先生、しっかりして。(30代 女性)



私も父が嫌い。母を大切にしないから。(女子中学生)

自分の意識の中にも、男女差別(区別)があると思う。この年になっても、自分の身の回りのことを母にやってもらっている。母も働いていて、時に自分でしなくてはならないときには、不満を感じている。おかしいとは思っているものの、それが現実だ。(20代 男性)

女性にとっての 家庭と仕事

自分こそ、意思決定の場に参画する道を歩いているのだという自覚を持って頑張りたい。(40代・80代 女性)

女性が責任ある仕事を持つために、家庭内での家事分担によって、活動するための時間を捻出しなくてはなりません。優しさや清潔感、女性だけが持つものではなく、人間みんなが持たないといけないものだと思います。(年齢性別不詳)

これからは、結婚する、しないという選択がますます可能な社会になると思います。家事や育児の負担は、お互いに話し合って決めていくことが大切。仕事は、能力とやる気があれば、男女が同じ条件で働くことができるのではないのでしょうか。(20代 女性)

比較的若い世代の夫は、働いている妻をいたわる気持ちから、家事その他に協力している。経済的にも助かり、妻がイキイキと仕事をして、有能だと評価されるのは嬉しい。(30代 男性)

男女、独身、既婚、子どもの有無に関係なく長時間勤務は大きな問題の1つ。現状では、保育園をいくら増やしても、総合職や専門職として女性がきちんと働き続けることは難しい。(60代 女性)

職場における 男女差について

女性の雇用を負担に思うのは、これからの企業としていかなるものか。(50代 男性)

子どもの担任が男性になってホッとしている。既婚の女性の先生は、とても大変そうで気の毒に思える。こんなふうに考えるのは、嫌なのですが…。(40代 女性)

「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例」

は市民の皆さんの暮らしを応援します。

「岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例」は今年の6月に制定され、10月1日からその一部が施行されます。この条例は、性別にかかわらず市民一人ひとりの個性が輝く「住みよいまち、住みたいまち (= 男女共同参画社会) をめざしています。でも「男女共同参画社会って何?」条例ができて自分には関係ない・・・」と思っている人もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、この条例が市民の皆さんの暮らしにどのように関わっていくのかについてご紹介します。

自分らしく生きたいあなたには・・・

この条例は、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進し、もって性別にかかわらず市民一人ひとりの個性が輝く「住みよいまち、住みたいまち」を創ることを目的としています。(前文・第1条関係)

性別によって人権が侵害されたり、固定的な役割分担によって自らの生き方の選択が制限されることのない男女共同参画社会は、自分らしく生きたいあなたにぴったりです!



子どもたちの個性と能力を伸ばしてやりたいあなたには・・・

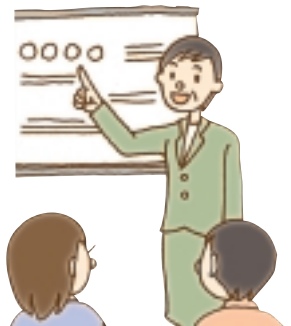


子どもから大人までのあらゆる教育の場面で男女共同参画の理念に配慮した教育に努めること、男女がともに次代を担う子どもたちの教育に積極的に参加することを内容とする「教育の責務」(第7条関係)を明記し、市はあらゆる教育の機会を通じて男女共同参画に関する教育及び学習の振興(第13条関係)を図ります。性別を理由とする教育上でのあらゆる制約や障害をなくし、男女共同参画の理念を広めることで、子どもたちの無限の可能性を伸ばしてあげましょう。

市民同士の活動の輪を広げていきたいあなたには・・・

市民及び事業者の男女共同参画社会の形成に関する自主的な取り組みに対し、情報の提供その他の必要な支援を行うこととしています。(第14条関係)

表町三丁目の岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」では、男女共同参画社会の実現をめざす市民の皆さんの活動を支援しています。あなたのグループのアイデアも実現してみませんか。



仕事と家庭のどちらも精一杯頑張っているあなたには・・・

男女がともに家庭生活及び地域生活と、職業生活とを両立することができるように、子の養育及び家族の介護等において必要な支援を行うこととしています。(第15条関係)

市では、絵員相互で子育てを応援し合うファミリーサポート事業を実施するほか、待機児童の解消など保育の充実も図り、仕事と家庭の両立を積極的に支援します。

わたしたちのまちをもっと元気なまちにしたいあなたには・・・

市では、政策の立案等に際して幅広い意見を聴くため、市の附属機関として各種の審議会等が設置されていますが、条例では、その全ての審議会等について、男女いずれの委員も40%以上となることを義務づけています。(第19条関係 ●1)

男女のより多様な意見を審議会での審議・調査に反映させることで、もっと元気で魅力のあるまちを創りたいと考えています。

職場でのセクハラや差別に悩んでいるあなたには・・・

条例では、家庭、職場、学校、地域などのあらゆる場における差別的な取扱い、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスは人権侵害であるとして、明確に禁止しています。(第8条関係)

性別によって権利を侵害された場合は、「さんかく岡山」内に設置される市の相談支援センターや、市内の福祉事務所等の女性相談員に相談することができます。(第21条・第22条関係 ①)

もちろん個人のプライバシーの保護には万全を期すこととしています。一人で悩まず、気軽にご相談ください。



夫や恋人から暴力を受けているあなたには・・・

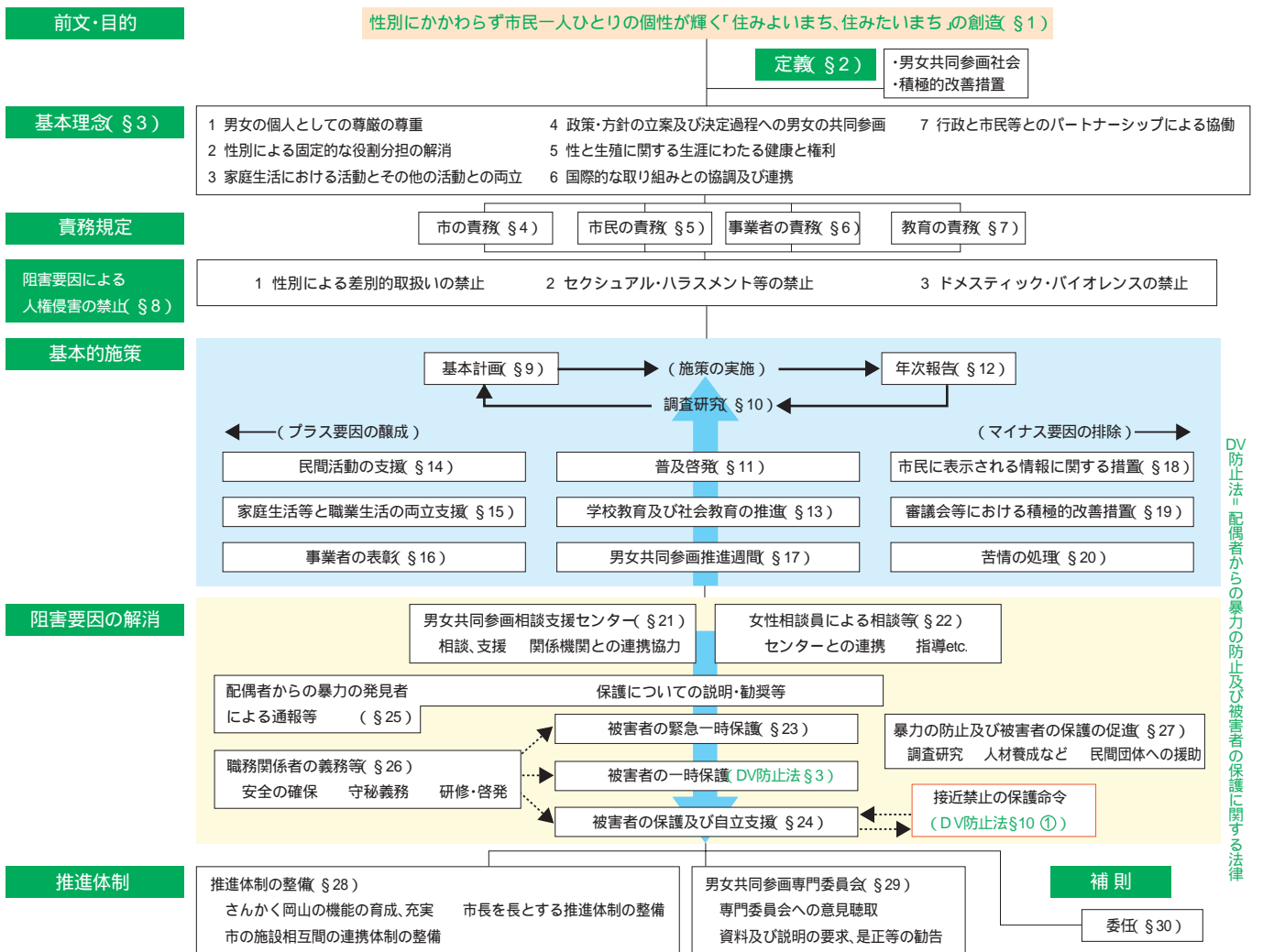
今年の4月に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」が制定されました。条例ではそのDV防止法へつなげるとともに、DV防止法にはないよりきめ細かい対策を加えて、全体として市独自の効果的な被害者の保護を可能としています。

具体的には、DV防止法による一時保護の前後に、被害者からの申し出によって開始される緊急一時保護やDV防止法の保護命令を要件とする自立支援のための保護などを行います。(第23条～第26条関係 ① ②)

- ① 平成14年4月1日から施行されます。
- ② 夫からの暴力だけでなく、妻からの暴力も対象としています。



岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例のしくみ



DV防止法「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」

条例の詳しい内容は、市のホームページ(<http://www.city.okayama.okayama.jp/shimin/danjo/jourei/>)でもご紹介しています。



岡山市立操山中学校PTA会長
村瀬 理恵さん

ジェンダーをこえて活躍する人。今回は、岡山市内の市立中学校33校の中でただ一人の女性のPTA会長、村瀬理恵さんをご紹介します。村瀬さんは、操山中学校のPTA会長で、岡山市中学校PTA連合会の副会長でもあります。

二代目の女性会長

案内された操山中学校の応接室には、歴代のPTA会長の写真が男性ばかり14枚ずらりと並んでいた。にこやかな笑顔で入ってきた現PTA会長さんは、壁の写真をちらりと見上げて「私が16代目ですか？実はウチの中学校は前任者も女性なんですよ。」と教えてくれた。村瀬理恵さん。香川県高松市出身。夫の転勤で岡山市に移り住んで18年になる。大学生の長男を筆頭に高校生の長女、中学生の二女と、三人の子の母親。二女が1歳の時に長男の小学校の委員を引き受けてからなんと11年連続でPTA活動にかかわっているという。「自分ならこうしてみたいという思いがある。好きだからやっているので負担感はない。役員のデメリットを数える人が多いけど、得るものの方がはるかに多いし、「おばさん」になっても勉強できるのが役員が一番大きなメリット。」



岡山市立操山中学校 校長先生と一緒に

なぜPTA会長が男性でないといけなの？

「女性でPTA会長を引き受けることをどう思いましたか？」と質問すると、逆に「なぜPTA会長が男性でないといけなのですか？」と切り返された。「学校の会合や行事に出席する保護者のほとんどがお母さん。気安く話もできるでしょう。女性がもっと会長になるべきですよ。」と語気を強める。もちろんPTA会長を受けることに対する迷いはあった。「私は、本当は学校と保護者のパイプ役として、保護者の要望や悩みを直接聞いて相談のったり、学校側に質問したりできる学級委員がしたかったです。」しかし、複数の友人から「今度は(学年だけでなく)学校全体を見る立場で…」と強く勧められ、応援されて会長をうける決意をした。

自分ができないことは周囲の人たちがやってくれる

就任して約3ヶ月。悩んだり迷ったり苦しい時期もあった。でも今は「楽しくて仕方ない。」と言う。悟ったことは、「うまくやろうとか、人から認めてもらおうとかしないこと。責任はとらなくてはいけいないけど、失敗しても笑ってゴメンと言えることが大切。それと、一人で全部はしない。自分ができないことは、自分とは違う能力を持った周りの人達が全てやってくれますから。」と、ちゃめつけたっぷりに笑う。

“おばさんたちのためになる井戸端会議”を企画

先日の自由参観日には、一週間のうち一日だけ一部屋を借りて“おばさんたちのためになる井戸端会議”というのを初めて企画した。先生にはちょっと話しにくい、でも誰かに聞いてもらいたい、そんな保護者の悩みや相談をお茶を飲みながらじっくり聞く。先日の第一回目には12人がこの部屋を訪れ、好評だったとか。「とにかく人間が大好きなんです。新しい人と知り合えることがうれしいんです。“村ちゃん”と、どんどん声をかけてもらいたいです。私は“会長さん”であるより先に“会長の友達”になりたい。」明るくて気さくな人柄が全身からにじみでる。



自分の人生を自分らしく生きる、そのために助け合いたい。

「男女共同参画社会の実現に向けて何か思うことがあれば…？」と尋ねると、「女性とか男性とかいうことは、あまり意識したことがないのですが」と前置きした上で「男性でも委員を引き受けてくれる人がいます。役員をする人は男でも女でもみんな子どもが好き、人間が好きという共通点があるような気がします。」と答え、さらに「自分の人生を生きていて良かったと思えるようにしたい。そのために障害があるなら、同じ人間だからお互いに助け合いたい。」と一語一語かみしめるように話してくれた。

PTA会長としてみなぎる活力の根源にあるのは、自分の人生を自分らしく精一杯生きたいという真摯な思いと、自分の周囲にいる人々をみんな友だちにしてしまう不思議な力。次に会った時ば「村ちゃん！」と声をかけてしまいたくなるような、親しみやすく魅力的なPTA会長さんだった。

DUO vol.21 編集後記



事務局O

今回の特集「私たち一人ひとりができること」…紙面の都合で話し合いのすべてを記載できず残念ですがいかがでしたか。「男女共同参画社会の実現」と一言でいえば大変むずかしくとられがちですが、私たちが身近なところからできることについて、何かヒントが見つかったでしょうか？一人ひとりの個性が輝いて、自分らしく生きていけるように、少しでも役に立てばと思います。親しみやすい「DUO」として、これからもご意見・ご感想をお待ちしております。

この情報誌は、市民公募の編集委員5名が企画・編集を行いました。